

1 教育理念

専門知識を教授するとともに、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の充実・発展に寄与できる心豊かな専門技術者の養成を目指す。

2 教育方針(校訓)

「鍛え磨く」

人間は清新はつらつとして希望に燃えている時に、自らを厳しく鍛えることにより、すばらしい人間となる。また、どんなに優れた才能を持っても、修養を積まなければ、その優れた才能を十分に発揮することはできない。学生が自らの持つ大きな可能性を信じ、可能性の実現に向けて果敢に挑戦することを期待し、「学校は、学生が心身を琢磨する道場である」として、校訓を「鍛え磨く」とする。

3 教育目的

看護師として必要な知識、技術を系統立てて教授するとともに、豊かな人間性を育み、社会に貢献できる看護実践者を育成する。

4 教育目標

- (1) 生活者である人間を身体的・精神的・社会的側面から捉え、統合的存在として理解できる基礎的能力を養う。
- (2) 人間の健康上の課題を明らかにし、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- (3) 人間の多様な価値観を認識し、看護専門職業人として倫理的判断に基づいた行動がとれる基礎的能力を養う。
- (4) 保健・医療・福祉における看護職の役割を認識し、チームの一員として他職種と協働できる能力を養う。
- (5) 社会の情勢に関心を持ち、看護を探究する姿勢を養う。

5 基礎看護教育における概念枠組み

看護の主要概念である **人間** **健康** **環境** **看護** および **教育**を以下に定義する

人間

- (1) 人間は、身体的・精神的・社会的に統合された存在である。
- (2) 人間は、環境に影響を与え、環境も人間に影響する。人間と環境は互いに相互作用する。
- (3) 人間は、生活の中で健康を創造する。
- (4) 人間は、成長発達し続ける存在であり、それぞれの発達段階において課題をもっている。
- (5) 人間は、よりよく生きるための身体的・精神的・社会的ニーズ(欲求)をもっており、自己実現を目ざす存在である。

健康

- (1) 健康とは、環境に適応し、身体的・精神的・社会的機能を発揮し、その人らしく生き生きと生活している状態である。
- (2) 健康は、環境の中でたえず流動している。
- (3) 健康は、最高の健康の極から死の極に至る連続体である。
- (4) 健康は、個別的なものであり、個人的に調和がとれている状態をいう。

環境

- (1) 環境は、生命と発達に影響する物理的・生物的・社会的・文化的なもので、人間を取りまくすべてを指し、内部環境と外部環境に大別される。
- (2) 環境は、人間と相互に影響しあい変化する。

看護

- (1) 看護は、あらゆる成長・発達段階にある人々の生活機能や生活の質に焦点をおき、健康や障害の状態に応じた援助を行うダイナミックな働きである。
- (2) 看護は、対象となる人の成長、望ましい健康状態の回復・維持・増進および安寧な死への支援をする人間関係を基盤としたサービスである。
- (3) 看護は、対象の健康上の課題を明らかにし、個別的に課題解決をする。
- (4) 看護は、社会のニーズに伴い変化する保健・医療・福祉の場面で、看護専門職としての役割を担う。

教育

- (1) 教育とは、学習者が自ら望ましい方向に変化するように、教育者が意図的・計画的な働きかけを行い、もてる力を引き出すようにすることである。
- (2) 学習とは、学習者によってコントロールされ、知的・情動的・生理的機能がかかわる内在的プロセスである。
- (3) 看護教育の内容は、人間の存在・生活に関する諸科学から、看護するために必要な広がりや深さで統合した知識体系と、相手がより健康的な生活のあり方を創造していくよう、相手の立場に立って援助することができる技術の修得である。